

第5章 生徒・個人のコスト負担

5-1. 受験料（評価料）

DP資格を取得するためには、高校3年生（12年生）の5月または11月（日本の高校の場合は11月が一般的）に実施される全世界共通の試験を受けて合格する必要がありますが、ここではその受験料（評価料）について説明します。

一人あたりの受験料は、以下のとおりになっています¹。

試験登録費 (受験のためまず全員に必要な費用)	204シンガポールドル（SGD）：約 1万7千円
科目毎の試験料	140SGD：約1万2千円
コア（EE）	108SGD：約9千円
同上（TOK）	55SGD：約5千円
同上（CAS）	11SGD：約1千円

フルディプロマ（DP資格全体）の取得のためには、原則として6グループから1科目ずつ履修し、さらにコア3要件を履修する必要があるため、生徒一人あたり、

$$204 + 140 \times 6 \text{科目} + 108 + 55 + 11 = 1218 \text{SGD} : \text{約} 10 \text{万円}^2$$

の受験料をDPの2年目に国際バカロレア機構に支払う必要があります。一般的には、学校はこの受験料を授業料に上乗せして生徒に支払ってもらうこととなります。

なお、この試験に失敗して、DP、または科目のCertificateを取得できなかった場合でも、再受験することは可能です。その際には、上記の受験料を再度支払うこととなります。

¹金額は2019年のものであり、今後変更される可能性があります。また、本章の内容は2019年（平成31年）3月6日（終値）時点のレート（1SGD=82.4円）で計算しています。

²同上

5-2. 教材費

第9章で後述しますが、DPで用いる教材は国際バカロレア機構が指定しているわけではなく、学校が独自の判断で選定しています。したがって、教材購入にかかる費用は学校によって様々です。

しかし、一般的な傾向として、教材費はDPコースを履修する生徒に負担させるケースが多くなっています。授業料に上乗せさせるか、教材費として別途徴収するかは各学校の判断となります。（中には、参照するだけの教材は貸与制として学校が購入し、書き込みを行う可能性のある教材に限って個人負担を求める学校もあります。）

コラム③『国際バカロレアは生徒にとって金銭負担が大きい??』

「IBはとにかくお金がかかる・・・」

上記の評価料を含め、授業料や教材費など、IBにはなにかと出費が伴いがち。そのような声をよく聞きますが、本当でしょうか。科目の予復習をはじめ（ディスカッション・ベースの授業なので、しっかり自習しなければ授業に付いていけません!）、TOK, EE, CASのための自主研究などで多忙を極めるため、IB生に塾に通う時間が確保できないことは、ある意味「常識」です・・・

一方、普通の高校生でも、日本の家計データを見ると、「学校外」での教育費（通塾費など）にかかる金額は平均で約2.3万円/年となっています。（私立高校生の場合の補助学習費。文科省「平成28年度子供の学習費調査」より）

これを見ると、IB生だからといって、必ずしも普通の高校生と比べて多額の教育費がかかってしまうということはないと言えるのではないのでしょうか。

第6章 奨学金

第5章でも触れましたが、DPを履修する生徒にとって受験料（評価料）は大きな負担です。そこで、このたびDP受験料を支援対象とする新しい財団が創設されました。これにより、世帯所得の低い家庭の生徒でも安心して国際バカロレア（IB）を履修できる環境が整ってきました。ここでは、簡単にその奨学メニューを紹介します。

6-1. 世界で生きる教育推進支援財団による個人負担への支援

DPを受ける生徒の世帯には、前述のDP資格を取得するための受験料の負担のほか、IBのプログラムを受ける上で必要となるPCやタブレット端末、数学などの授業で使用するグラフ電卓の購入経費などが追加の負担となります。

そうした生徒の世帯にかかる負担によって、生徒・保護者がIB教育を諦めることのないよう、「世界で生きる教育推進支援財団」では、世帯の所得に応じて、受験料の助成・物品の貸与を行っています。

① 受験料（評価料）の助成

世帯の所得に応じて、卒業試験料の全部又は一部を助成します。

② 物品の貸与

IBを受けるのに必須な物品であるPC・タブレット端末やグラフ電卓を貸与します。

（事業の詳細については、財団のWEBページ（<http://www.sekaideikiru.com/>）を参照ください。）

コラム④『世界で生きる教育推進支援財団の目的』（寄稿）

日本は今まさに教育の転換期を迎えようとしています。今夏、文部科学省がはじめて、国際バカロレアと学習指導要領の双方を無理なく履修できる教育課程の特例措置を新設しました。また、日本語DPの開発によって、日本の子ども達が母語で国際バカロレアのDPを学ぶことが出来るようになりました。

本財団は、日本の教育現場に新しい教育を導入することを目指していくとともに、金銭的なサポートも行っていくことを目的として、2014年11月に設立しました。国際バカロレアのプログラムが導入されることで、子ども達に教育の選択肢を提供することが出来るようになります。

より多くの子ども達に国際バカロレアのプログラムを学ぶ機会が提供できることを期待しています。今後も文部科学省とともに国際バカロレアの導入を推進していく考えです。

（世界で生きる教育推進支援財団理事長 坪谷・ニューエル・郁子）

第7章 IBカリキュラム

7-1. IBカリキュラムの概要

DPカリキュラムは、1から6の各グループおよびコアとなる3要件（E（課題論文）、TOK（知の理論）、CAS（創造性・活動・奉仕））から構成されます。（カリキュラムの詳細は1-2を参照ください。）

学校教育法第一条に定める学校で、国際バカロレア（IB）を導入・実施する場合、我が国の学習指導要領に加えてDPのカリキュラムを履修することとなります。ただし、単に授業時間数を増加させて対応するというだけでは、生徒の負担が過重になってしまいます。そこで、文部科学省では、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校においてDPのカリキュラムを円滑に実施することができるよう、7-2に示す特例措置を講じました。

7-2. 国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの導入を促進するための教育課程の特例措置について

学校教育法施行規則を改正し、国際バカロレアと学習指導要領の双方を無理なく履修できる特例措置を新設しました（平成27年8月19日に、公布・施行）。具体的には、以下の内容を告示で規定しています。

- ① 学校設定教科・科目として設置したIBDPの科目について、生徒の負担を軽減するために、卒業に必要な単位数に算入できる上限を拡大（20単位⇒36単位）すること。
- ② 英数理の必履修科目及び総合的な学習の時間については、関連するIBDP科目の履修をもって代えることができること。
- ③ 国語以外の教科等については、英語による指導を行うことができること。

第8章 評価

DP資格を取得するためには、1から6の各グループから原則1科目ずつ履修することに加え、3要件（EE、TOK、CAS）を履修する必要がありますが、生徒はそれぞれの科目につき評価を受けることとなります。配点は、各グループの科目は、それぞれ7点満点、コアとなる3要件のうちEEとTOKをあわせて3点満点として計算されます。数式で説明すると、DP資格（45点満点）＝グループ科目6科目×7点（42点）＋EEおよびTOK（3点）ということになります。

（※CASは点数評価の対象になっていませんが、修了できなければDP資格を得ることはできません。）

なお、「原則24点以上」を獲得した場合に初めてDP資格が付与されます。

<1から6の各グループの科目の評価方法>

各グループの科目の評価は、外部評価と内部評価に分かれます。このうち、外部評価として最終試験（筆記）および最終試験に先立って生徒が提出するレポートなどがあり、これらが評価全体の約70%を占めます。また、内部評価としてレポートや口頭試問等があり、これが残りの約30%を占めます。外部評価は専門のIB試験官が行います。一方、内部評価は各学校の教員が、IBの評価方針に基づいて行うことになっていますが、評価結果のサンプルをIB試験官にも送付する必要があります。試験官と教員が異なる評価を行った場合には、点数が調整されることもあります。（これは「モデレーション（評価の適正化）」と呼ばれます。）

<EE（課題論文）の評価方法>

EEの評価は、IB試験官が行います。11の観点別評価により行われ、グレードAからEおよびNの6段階で評価されます。EEはTOKとあわせ、最高3点で評価されます。

<TOK（知の理論）の評価方法>

TOKの評価は、IB試験官の採点によるエッセイ（67%）および各学校教員の採点によるプレゼンテーション（33%）により行われます。グレードAからEおよびNの6段階で評価されます。TOKはEEとあわせ、最高3点で評価されます。

※ 本節で記載した内容につき、詳細を知りたい方は、国際バカロレア機構が作成している「DPにおける評価の手順」をご参照ください。評価に関する具体的な時期や内容・方法について詳しく記載されています。

(<https://www.ibo.org/globalassets/publications/assessment-procedures-handbook-2018-jp.pdf>)

第9章 教材

D Pを実施するにあたって、国際バカロレア機構の指定する教材はありません。したがって、各学校においては、コーディネータおよび教員の判断で、使用する教材を選択することになります。ただし、「日本語A：文学」および「日本語A：言語と文学」においては、国際バカロレア機構が指定する「指定作家リスト（P L A: Prescribed List of Authors）」及び「指定翻訳作品リスト（P L T: Prescribed List of Translations）」のリストの中から使用する教材を選択することになっているため、注意が必要です。（P L Aにおいて選択するのは作家のみで、作品は各学校で選ぶことができます。）

なお、日本語D P教科については、日本語の教材（我が国の検定教科用図書を含む。）を使用することも当然ながら可能です。

イメージを持っていただくため、参考までに現在D P校がどのような教材を使用しているかを次ページ以降で紹介します。

国内のDP認定校（一条校）で使用している教材例

※ここに掲載しているのは実際に使用されている教材のうちのごく一部です。また、国際バカロレア機構または文部科学省がこれらの教材の使用を推奨しているというわけではありません。あくまで参考のものとお考えください。

<p>English</p>	<p>English A and B : Oxford University Press, Cambridge University Press, Pearson Education, and etc.</p> <p>[English A]</p> <p>Hamlet by William Shakespeare Kokoro by Natsume Soseki The Book Thief by Markus Zusak A Clockwork Orange by Anthony Burgess Rosencrantz and Guildenstern Are Dead by Tom Stoppard Selected short stories by Alice Munro Macbeth by William Shakespeare The Analects of Confucius (論語) Tao Te Ching (道德経) Vor dem Gesetz by Franz kafka 掟の門 (フランツ・カフカ) Bunsho Dokuhon by Tanizaki Junichiro 文章読本 (谷崎潤一郎) Genji Monogatari<The Tale of Genji> 源氏物語 (紫式部) The Poetry Works of Takamura Kotaro 高村光太郎詩集 Konjaku Monogatari-shu 今昔物語集 Nippon Eitaigura (Ihara Saikaku) 日本永代蔵 (井原西鶴) Shinshaku Shokokubanashi (Dazai Osamu) 新釈諸国噺 (太宰治) Ao no Jidai (Mishima Yukio) 青の時代 (三島由紀夫) Nobou no Shiro (Wada ryo) のぼうの城 (和田竜) Shiji (Sima Qian) 史記 (司馬遷) Kokusenyakassen 国姓爺合戦 (近松門左衛門) Out of My Mind Things fall apart A hand maid' s tale Do Android' s dream of electric sheep The Great Gatsby by F. Scott Fitzgerald Poetry of Gwendolyn Brooks The Crucible by Arthur Miller Grendel by John Gardner Persepolis by Marjane Satrapi Flowers for Algernon by Daniel Keyes Lord of the Flies by William Golding The Catcher in the Rye by J.D. Salinger Thousand Cranes by Yasunari KAWABATA Nineteen Eighty-four (New Windmills) by George Orwell</p> <p>[English B] The Giver American Born Chinese The Scarlet Letter by Nathaniel Hawthorne</p>
----------------	---

<p>Japanese</p>	<p>[Japanese A] 「マクベス」シェイクスピア 「異邦人」アルベール・カミュ 「カンディード」ヴォルテール 「在りし日の歌」中原中也 「羅生門」「藪の中」芥川龍之介 「様々なる意匠」「Xへの手紙」「私小説論」小林秀雄 「人間失格」太宰治 「仮面の告白」「春の雪」三島由紀夫 「雪国」川端康成 「星々の悲しみ」宮本輝 「重力ピエロ」伊坂幸太郎 「蠅の王」ウィリアム・ゴールディング 「こころ」「草枕」夏目漱石 「ダブリナーズ」ジョイス 「夕鶴」木下順二 「月に吠える」萩原朔太郎 「徒然草」兼好法師 「野火」大岡昇平 「舞姫・阿部一族」森鷗外 「砂の女」安部公房 「陶淵明の詩文数編」陶淵明 「山月記・李陵」中島 敦 「枕草子」清少納言 「友達・棒になった男」安部公房 「死者の奢り・飼育」大江健三郎</p> <p>[Japanese B] 「カラフル」森絵都 「鼻」「蜘蛛の糸」「杜子春」芥川龍之介 「物語のある広告コピー」パイインターナショナル 「デューク」江國香織</p>
<p>History</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Oxford IB Diploma Programme 20th century world History Course Companion • 「グローバルワイド最新世界史図表」第一学習社 • First Publications Dates Used/Authors in Bold Type)Oxford University Press 20th Century World History: Course Companion 2009 Cannon, Jones-Nerzic, et al • Pearson Baccalaureate 20th Century World: Causes, Practices, and Effects of Wars 2010 Rogers and Thomas • Pearson Baccalaureate 20th Century World: Authoritarian and Single-Party States 2010 Mimmack, Price, and Senes • Pearson Baccalaureate A Comprehensive Guide to Paper 1 2009 Mimmack, Price, and Senes • Hodder Education Access to History: The People's Republic of China 1949-1976 2012 (2nd Edition) Lynch • Hodder Education Access to History: The USA and Vietnam 2012 (3rd Edition) Sanders • International Baccalaureate IB Prepared Study Guide: History SL and HL 2012 Miller and Woodfin • その他、各種新聞やDVDなど

Chemistry	Chemistry Course Companion, Oxford, 2014 Higher Level Chemistry 2nd Edition Book + eBook (Pearson International Baccalaureate Diploma: International E) 「2014 EDITION CHEMISTRY」 OXFORD、HG S 分子構造模型 C 型セット
Mathematics SL	IB Mathematics Standard Level Course Book: Oxford IB Diploma Programme” (Oxford University Press) HAESE Mathematics SL 3rd Edition(Text&CD)、HAESE Mathematics HL (Core)3rd Edition(Text&CD)、HAESE Mathematics HL (Option) Calculus(Text&CD)
Economics	Economics Second Edition Jocelyn Bink & Ian Dorton IB Course Companion: Economics Second Edition Jocelyn Bink & Ian Dorton Pearson Baccalaureate Economics, Maley & Welker
Physics	Pearson Baccalaureate Physics Higher Level Print and eBook Bundle for the IB Diploma
Biology	「ワークブックで学ぶ生物学の基礎(第二版)」、「ワークブックで学ぶ生物学実験の基礎 Skills in Biology」 Pearson, Pearson Baccalaureate Biology SL & HL 2007 & 2014
Environmental systems and Societies	Environmental Systems and Societies. Pearson Education Limited. 2010
MUSIC	The Enjoyment of Music 11th edition K. Forney & J. Machlis
TOK	Decoding Theory of Knowledge for the IB Diploma. Themes, Skills and Assessment Cambridge University Press

第10章 認定後の対応

10-1. 定期評価訪問（再掲）

晴れてIB認定校となった後も、学校は定期的に国際バカロレア機構のチェックを受けなければなりません。5年に一度実施される定期評価訪問¹がそれに当たります。なお、学校側は定期評価訪問に係る費用を負担する必要があります（詳しい費用はIB機構へお尋ねください）。

なお、定期評価訪問は、全ての学校が国際バカロレア機構による訪問を受けるわけではありません。訪問を受ける場合には、学校には一年前にその旨の連絡があり、訪問に際しては2-8に記載した確認訪問と同様の対応を行う必要があります。

一方、訪問を受けない場合でも、学校は書類による内部評価を提出し、国際バカロレア機構からその検討結果を受け取ることになります。（2-10で既掲。）

10-2. 年間スケジュール（例）

学校の行事などにより多少の違いはありますが、DP履修者については以下のようなスケジュールで概ね進行していくものと考えられます。（もちろん、この例にならわなければならないものではありません。）

高校2年

4月～6月：通常授業

7月：通常授業、期末考査

8月：夏休み

9月～10月：通常授業

11月：通常授業

12月：通常授業、冬休み

1月～3月：通常授業、期末考査

¹評価訪問（Evaluation Visit）：認定校となった後に行われる訪問のこと。5年に一度行われる。全ての学校が訪問を受けるわけではないが、訪問を受けない場合でも内部評価を提出する必要がある。

高校3年

4月～6月：通常授業

7月：通常授業、DP模擬試験、期末考査、EE学内提出

8月：夏休み

9月～10月：通常授業、IAならびにEE・TOK提出

11月DP最終試験

12月：通常授業、冬休み

1月：受験準備

*なお、高校1年生の3学期（1月頃）からIBコース1年目を始めることも可能である。その場合は、開始時期から2年によるDP履修スケジュールを各学校にて調整するようにしてください。

○必要に応じて進路説明会の機会を設けるのが一般的です。

○上記のほか、適宜外部試験を行うのが一般的です。外部試験には、海外留学を考える生徒向けに実施するもの（SATやTOEFL、IELTSなど）

と、国内の大学入試対策の模擬試験を実施するものが考えられます。

10-3. 大学入学者選抜への対応

DP資格を取得することで、生徒の進路選択の幅が従来に比べて広がることが考えられます。学校は、生徒の希望を斟酌し、積極的に国内・海外双方の大学の入試情報にアクセスする必要があります。DPスコアを利用して大学入学者選抜に臨む場合、注意したいのは試験の実施時期と出願のタイミングです。

（高3の11月にDP試験を受験する場合）

11月に試験を受ける場合、最終スコアが国際バカロレア機構から発表されるのは翌年の1月上旬となります。しかし、特に国内大学においては、最終スコアの発表を待って出願すると期限に間に合わなくなる可能性があります。そこで多くの学校が活用するのが「予測スコア（PG：Predicted Grade）」です。

学校は、それまで生徒が提出したレポートなどの評価を総合的に判断し、独自に「予測スコア」を算出し国際バカロレア機構に提出します（10月中旬が提出期限）。生徒はこの「予測スコア」を希望する大学に出願します。この時点で、大学は生徒の「予測スコア」を元に論文試験や面接試験を課し、合格

ラインに到達していれば「条件付合格」を通知します。ここで言う「条件付」というのは、生徒が提出した「予測スコア」が、そのまま「最終スコア」として国際バカロレア機構から発表されれば、という意味です。「最終スコア」が「予測スコア」と同じ、あるいはほぼ同じという結果が国際バカロレア機構から大学に通知されれば、晴れて「合格」となります。

国内大学でD Pスコアを活用する入試を実施している大学は、こうした措置を採っている大学がほとんどです（D P資格取得見込みで受験可能です）ので、詳細は受験を希望する大学までお問合せください。

（参考：高3の5月にD P試験を受験する場合）

我が国の多くの学校においては、11月試験が一般的ですが、インターナショナルスクールなどにおいては5月試験を実施するケースもあります。最終スコアが発表になるのが7月上旬ですので、それまでに出願の必要がある場合は、学校の算出する「予測スコア」を用いて出願を行うこととなります。この場合、「予測スコア」の国際バカロレア機構への提出期限は4月上旬です。

コラム⑥『予測スコア』

「予測スコアは信頼できるの??」

多くのIB生が受験で使う予測スコア。上で説明したとおり、学校が国際バカロレア機構からの公式発表の前に独自に算出するものですが、学校独自の算出となると、どうしても、学校ごとに数字が異なってきてしまう気がします。IBは全世界に認定校がありますから、大学にとっても、あまりに国や地域、学校によってスコアの差が出てしまうと困ってしまいます。

そこで、国際バカロレア機構は予測スコアの誤差を最小限に抑えるため、学校に予測スコアの提出を義務づけています。これにより、当該学校が「予測スコアを本来より高めに/低めに算出している」といった傾向を把握し、より正確なスコアの算出に努めているのです。

第11章 よくある質問

※ここに記載した質問のほか、国際バカロレア機構のサイトでも、「ディプロマ資格プログラムに関するよくある質問」が掲載されています。

(<http://www.ibo.org/globalassets/publications/faq-on-the-dp-jpn.pdf>)

No.	質問	回答	解説
1. 申請など認定手続きにあたって			
1-1	新設校でIBの認定を取得しようと考えていますが、校舎がない段階で申請をすることはできますか。	DP⇒はい MYP/PYP⇒いいえ	DPでは、課程が開始していない状態、校舎がない状態であっても候補校申請を行うことは可能です。(国際バカロレア機構がアドバイスすることもできます。)しかし、MYP/PYPでは、実際に学校が運営されていなければ、申請することはできません。
1-2	建物や設備の基準や条件はありますか。	建物に関しては特にありませんが、設備に関しては一部あります。	建物に関して、細かい基準や条件はありませんが、設備に関しては、より安全な学習環境を生徒に提供していく観点から、「IB DP科学科目のための科学実験室のガイドライン」があるほか、図書室の扱いについても若干の決まりがあります(詳しくは4-2を参照ください)。
1-3	申請を始める条件は他にありますか。	はい	候補校申請を行う前に、スクールインフォメーションフォームを提出し、学校の管理者(IB導入の責任者で、多くの場合校長または教頭)がIBのワークショップ(Administrator)を受講している必要があります。
1-4	MYP/PYPの場合も認定までに経るプロセスは同じですか？	はい	MYP/PYPの場合もDPと同様、スクールインフォメーションの提出→候補校申請→候補校への認定通知→コンサルタント訪問→認定校申請→確認訪問→認定通知という一連の流れは変わりません。ただし、WS受講対象者や受講のタイミング、学校の年会費などはプログラムにより異なってきますので、注意が必要です。

2. 授業を行うにあたって			
2-1	いつからIBの授業を始めることができますか。	DP⇒認定後に授業を始められます。 MYP/PYP⇒候補校として認定された後に、「授業の試行」として実施することができます。	DPでは、認定を受けた後でなければ授業を始めることが出来ません。一方で、MYP/PYPでは、候補校となればIBの「授業の試行」を始めることができます。 なお、上記のいずれにせよ、授業の実施に関しては国際バカロレア機構とよく相談し、特に学校の宣伝には細心の注意を払ってください。(詳しくは2-11を参照ください。)
2-2	日本語DPを選択した場合は、英語以外の授業は全て日本語で行って良いのですか。	いいえ	科目としての「英語」に加え、最低1科目は英語で授業を行う必要があります。
2-3	日本語DPを選択した場合でも、英語で行う授業を3科目以上設置することは可能ですか。	はい	学校の方針によって、複数設置することができます。
2-4	MYP/PYPは日本語で授業を行うことはできますか。	はい	MYP/PYPでは、第一言語で授業を行うことが一般的です。(ただし、PYPでは7歳から第二言語の授業を行うことが必須となります。) 学校の方針によって、英語で授業を行う科目を複数選択することもできます。
2-5	ひとつの学校内でIBコースと普通科など、コースを分けることはできますか。	DP⇒はい MYP/PYP⇒いいえ	DPは、コースに分けて、同学年のうち一部の生徒だけが授業を受けることができます。MYP/PYPでは、学校全体で認定を受けるため、全ての生徒がIBを受けることとなります。

2-6	IBを選択した生徒とその他の生徒と一緒に授業を受けることができますか。	DP⇒はい MYP/PYP⇒いいえ	IBを選択している生徒とそのほかの生徒と一緒に授業を受けることはできます。(既存の教育課程と照らし合わせて、似ている分野などは、一緒に授業を行うことができます。)ただし、授業形態に関しては国際バカロレア機構と事前によく相談することが重要です。
2-7	既存の教科書を使用して授業を行うことはできますか。	はい	日本の検定教科書を用いるなど、IBの授業を行う際には学校が教材を選択できます(各科目の教員とコーディネータが相談して決めることとなります)。
2-8	PYPは、3歳～12歳までの課程が全て揃っていないければ実施できないのですか？	いいえ	PYPは、最低2年間連続する課程があれば実施可能です。したがって、幼稚園段階のみで実施する、小学校段階のみで実施するといった方法も可能です。
2-9	DPコースにおける一クラスの生徒数は何人ですか？	特に決まっています。	IBは学級規模を規定していませんが、『プログラム実施規準と実践要綱』ページ23のC3にある基準を満たす必要があります。実際に学級規模を決めるにあたっては、国際バカロレア機構と事前によく相談することが重要です。
3. その他			
3-1	国際バカロレア機構への支払方法について教えてください。	海外送金で対応ください	国際バカロレア機構への支払方法については、各学校が海外送金で対応します。海外送金に対応している銀行窓口、もしくは、各銀行がWEB上で海外送金を行うことができるサービスを提供していますので、そちらをご利用ください。なお、支払いの通貨はSGD(シンガポールドル)です。

3-2	ワークショップはいつ頃までに受講すればいいですか。	「Administrator」⇒候補校申請まで それ以外⇒確認訪問まで	「Administrator」は候補校申請を行うまでに受講する必要があります。DPコーディネータ・科目別ワークショップに関しては確認訪問までに受講する必要があります。
3-3	IBのスコアを活用した大学入学選抜を受ける場合、卒業試験の時期によって、国際バカロレア機構からのスコアが間に合わないときは、大学入試を受けることができないのですか。	受験できます	大学入試の応募要件については、詳しくは各大学にお問い合わせください。一般的には、学校が各生徒に出す予測スコアを用いて、出願することができます。大学からスコアに関する「条件付きの」合格を得た生徒については、国際バカロレア機構からのスコアが当該条件を満たしている場合、正式に合格となります。(詳しくは10-3を参照ください)
3-4	日本語で読めるIB資料はありますか？	はい	国際バカロレア機構のページに、IB導入の手続きに関する資料や、科目ごとのカリキュラム・ガイドが日本語で翻訳され、掲載されています。全ての文書が翻訳されているわけではありませんが、導入の参考にしていただければと思います。 https://www.ibo.org/about-the-ib/the-ib-by-region/ib-asia-pacific/information-for-schools-in-japan/
3-5	DP資格の取得率を教えてください。	2017年の結果では、全世界のDP資格取得率が69.7%でした。	国際バカロレア機構では、各年度における5月・11月試験における統計資料を公開しております。 https://www.ibo.org/about-the-ib/facts-and-figures/statistical-bulletins/diploma-programme-statistical-bulletin/

第12章 国際バカロレア関連用語集

この章では、本手引きに掲載されている用語を中心に説明します。

(ア～オ)

○ I B (アイビー) <International Baccalaureate>

International Baccalaureate (国際バカロレア) の略。教育内容を指すこともあれば、国際バカロレア機構を指すこともある。本手引きでは、教育内容を指す場合は「I B」、組織を指す場合は「国際バカロレア機構」と表記している。

○ I B D P 科学科目のための科学実験室についてのガイドライン

学校がどのような設備や器具を準備する必要があるのかを定めた文書。日本語版は「Resources for schools in Japan」に掲載されている。4-2参照。

○アクションプラン

候補校申請書類を構成する一つの文書。今後「プログラムの基準と実践要綱」に基づいて、学校がどのような取組を行っていくのかを記載するもの。2-3参照。

○アドミニストレータ

学校の管理者のことで、我が国においては通常校長や教頭を指す。該当者は、候補校申請までにアドミニストレータ対象のWSを受講しなくてはならない。3-3参照。

○ A P (エーピー) <Advanced Placement>

非営利機関・カレッジボードが提供する教育プログラム。アメリカとカナダの高校において導入されている。A Pの授業の修了資格が、提携大学の単位として認められるもの。1-3参照。

○ M Y P (エムワイピー) <Middle Years Programme>

I Bのプログラムの一つ。11歳～16歳を対象とする。

○ O C C (オンライン・カリキュラム・センター)

I Bに関する様々な書類を閲覧できるサイト。候補校になるとアカウントが与えられ、アクセスを許可される。

(カ～コ)

○外部評価

各科目における、最終試験およびそれに先だって提出するレポートによる評価のこと。各科目のスコアのうち、約7割がこれらの評価で構成される。第8章参照。

○学習者像 (I Bの学習者像) (IB Learner Profile)

I Bが理想として考える人物像のこと。「探究する人・知識のある人、考える人、コミュニケーションができる人・信念を持つ人・心を開く人・思いやりのある人・挑戦する人・バランスのとれた人・振り返りができる人」の10の特徴から構成される。1-1参照。

○確認訪問 (Verification Visit)

認定校申請へ向けた最終段階で行われるI B機構による訪問のこと。2-8参照。

○課題論文 (エクステンデッド・エッセイ) <Extended Essay>

コア科目の一つ。履修科目に関連した研究分野について個人研究に取り組み、成果を4,000語(日本語の場合は8,000字)の論文にまとめるもの。

○学校設定教科・科目

学習指導要領で定める教科・科目以外に、教育上の必要から学校独自に設定できる教科・科目のこと。7-1参照。

○カテゴリ1, 2, 3

ワークショップの開催レベルのことで、I Bの理解度・経験により分かれている。初めて参加する場合は、カテゴリ1を受講することとなる。3-3参照。

○関心校

候補校となる前段階の学校を指す。

○コア

DPのカリキュラムの中で、いわゆる3要件と呼ばれる、TOK（知の理論）、EE（課題論文）、CAS（創造性/活動/奉仕）のこと。1－2参照。

○候補校<Candidate School>

候補校申請書類を提出し、国際バカロレア機構による書類検討を経て、候補校として認められた学校のこと。候補校年会費が必要となる。

○候補校申請（Application for Candidacy）

関心校が、候補校を目指して必要書類を提出すること。申請料が必要となる。2－3参照。2－3参照。

○国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマ連絡協議会

IB認定校および今後認定を目指す学校の間の情報共有・連絡調整を目的として設置された会議体のこと。事務局は東京学芸大学学務部国際課内に置かれている。

○国際バカロレア（IB）入試

IB資格の有無や、そのスコアなどによって合否判定を行う入学者選抜方法のこと。単に受験資格の一つとして記載しているだけではIB入試とは呼ばない。1－3参照。

○コーディネータ

国際バカロレア機構や学校内部・外部との総合的な調整を担う教職員のこと。当該高校の常勤職員（特に教科の教員）が担うのが一般的。確認訪問までにコーディネータ対象のWSを受講しなければならない。3－1参照。

○コンサルタント

候補校になると、各学校に担当として就くことになる。学校は、コンサルタントとのやり取りを継続し、認定校を目指すことになる。2－5参照。

○コンサルタント訪問（Consultation Visit）

候補校になってからのコンサルタントによる訪問のこと。2－5参照。

（サ～ソ）

○受験料（評価料）

DP資格取得のための最終試験の受験料のこと。5－1参照。

○スクールインフォメーションフォーム（SIF）

IBに関心を持つ学校が、最初のプロセスとして無料で行う簡単な情報登録のこと。2－2参照。

○SL（スタンダードレベル）

DPの各科目における、標準レベルの科目のこと。通常150時間の学習時間で構成される。

○世界で生きる教育推進支援財団

IBを履修する学校・生徒の財政支援のため設立された財団。6－1参照。

○創造性・活動・奉仕（キヤス）<CAS: Creativity/Activity/Service>

コアの一つ。創造的思考を伴う芸術などの活動、身体的活動、無報酬で自発的な交流活動といった体験的な学習に取り組むもの。

（タ～ト）

○知の理論（ティーオーケイ）<TOK: Theory of Knowledge>

コアの一つ。「知識の本質」について考え、知識の構築に関する問いを探究するもの。批判的思考を培い、生徒が自分なりのものの見方や、他人との違いを自覚できるよう促すもので、最低100時間の学習が目安となる。

○DP（ディーピー）<Diploma Programme>

IBのプログラムの一つ。16歳～19歳を対象とする。

○特別免許状

社会人など優れた知識・経験を持つ人材を対象に、都道府県教育委員会が授与する免許状のこと。3-3参照。

(ナ～ノ)

○内部評価

各科目における、レポートや口頭試問による評価のこと。各科目のスコアのうち、約3割がこれらの評価で構成される。第8章参照。

○日本語DP

IBカリキュラムの科目の一部を日本語でも実施可能とするプログラムのこと。1-2参照。

○認定校（IB World School）

IB教育を実施できる学校のこと。

○認定校申請

確認訪問のあと、候補校が認定校を目指して行う申請のこと。申請費は不要。2-6参照。

(ハ～ホ)

○HL（ハイレベル）

DPの各科目における、上級レベルの科目のこと。通常240時間の学習時間で構成される。

○評価訪問<Evaluation Visit>

認定校となった後に行われる訪問のこと。5年に一度行われる。全ての学校が訪問を受けるわけではないが、訪問を受けない場合でも内部評価を提出する必要がある。2-10または10-1参照。

○PYP（ピーワイピー）<Primary Years Programme>

IBのプログラムの一つ。3歳～12歳を対象とする。

○フル・ディプロマ

6科目と3要件を全て履修し、最終スコアで24点以上を取得すると認められる資格のこと。通常、IB資格、DP資格といった場合は、このフル・ディプロマを指す。

○Program Resource Center（プログラムリソースセンター）< Program Resource Center >

「My IB」よりログインができ、IBに関する様々な書類を閲覧できるサイト。候補校になるとアカウントが与えられ、アクセスを許可される。

(ヤ～ヨ)

○UCAS（ユーキャス）<University and College Admissions Service>

英国入試機構。英国の非営利機関であり、英国内の大学への入試業務を一括処理している。国内外の様々な資格を点数化し、相互の比較を可能にしており、DPスコアもAレベルなど英国国内の試験と換算可能となっている。

(ラ～ロ、ワ)

○ワークショップ（WS）

IB教育に携わる教職員等を対象にIBにより開講される研修のこと。そのうち、最低限受講の必要があるのはアドミニストレータWS、コーディネータWSおよび各科目のWSである。3-3参照。

第13章 お問合せのための連絡先

国際バカロレアについてご不明な点がございましたら、お気軽に下記までお問い合わせください。

① 文部科学省 I B 教育推進コンソーシアム事務局
(アオバジャパン・インターナショナルスクール内)
(MAIL: consortium.info@aobajapan.jp)

○ I B 全般について、本マニュアルについて等
文部科学省 I B 教育推進コンソーシアム事務局

○ I B カリキュラムと学習指導要領との対応関係について
文部科学省初等中等教育局教育課程課

○ 特別免許状について
文部科学省初等中等教育局教職員課

○ 大学入学者選抜について
文部科学省高等教育局大学振興課

② 国際バカロレア機構アジア太平洋地域日本担当地域開発マネージャー

○ 星野あゆみ
(玉川大学 玉川大学大学院教育学研究科IB研究コース 教授)
MAIL: ayumi.hoshino@ibo.org

○ また、国際バカロレア機構のウェブサイト上の IB Answers
(<https://ibanswers.ibo.org/>) からのご質問いただけます。
*ただし英語のみによる問い合わせとなります。

巻末資料

国際バカロレアを活用した大学入試（例）

国際バカロレアを活用した大学入試（例）

- ・日本の学校の卒業生を対象としているものを掲載しています。
（いわゆる帰国生や留学生に対象を限定しているものを除く）
- ・本資料は各大学へのアンケートに基づき文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局にて作成した前回資料（平成29年10月現在）の更新版として各大学からの回答を元に作成しております。必ずしも全ての情報を網羅しているわけではありません。また、実際の出願等にあたっては、各大学より最新の情報を入手してください。
- ・この資料での試験開始実施年度は、入学年度ではなく、試験が行われる年度として掲載しています。
（例：平成29年度実施試験＝平成30年3月までに実施される試験のこと）

	国公私	大学名	入試名称	試験導入年度 (入学年度で はない)	対象学部	学部名	対象者
1	国立	北海道大学	国際総合入試	平成29年度 から実施	一部	総合教育部 ※2年次進級時に学部へ移行。移行対象は全学部（文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、農学部、獣医学部、水産学部）	IB資格者 以外も対象
2	国立	金沢大学	国際バカロレア入試	平成28年度 から実施	全学域 (医薬保健学域医学類を除く)	人間社会学域、理工学域、医薬保健学域（医学類を除く）	【IB資格者のみを対象】
3	国立	筑波大学	国際バカロレア特別入試	平成26年度 から実施	全学群	人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、生命環境学群、理工学群、情報学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群	IB資格者のみを対象
4	国立	お茶の水女子大学	AO入試 (新フンボルト入試)	平成28年度 から実施	全学部	(全学部、ただし文教育学部芸術・表現行動学科を除く) 文教育学部(グローバル文化学環を含む、文教育学部芸術・表現行動学科を除く)、理学部、生活科学部	IB資格者 以外も対象
5	国立	東京大学	推薦入試	平成27年度 から実施	一部	法学部、教養学部、工学部	IB資格者 以外も対象
6	国立	東京医科歯科大学	特別選抜Ⅰ (国際バカロレア入試)	平成29年度 から実施	全学部	医学部、歯学部	IB資格者のみを対象
7	国立	東京外国語大学	帰国生等特別推薦入試	平成27年度 から実施	全学部	言語文化学部 国際社会学部 国際日本学部	IB資格者 以外も対象
8	国立	東京藝術大学	外国教育課程出身者特別入試	平成28年度 から実施(平成29年4月入学)	音楽学部	音楽学部	IB資格者 以外も対象
9	国立	大阪大学	AO・推薦入試 (世界適塾入試)	平成28年度 から実施	一部	文学部、人間科学部、外国語学部、法学部、経済学部	IB資格者 以外も対象

	国立	大阪大学	学部英語コース特別入試	平成 24 年度以前から実施	一部	人間科学コース（人間科学部） 化学・生物学複合メジャーコース（理学部、工学部、基礎工学部）	IB 資格者以外も対象
10	国立	豊橋技術科学大学	グローバル技術科学アーキテクト養成コース入試	平成 29 年度	全学部	工学部	IB 資格者以外も対象
11	国立	名古屋大学	推薦入試	平成 28 年度から実施 ※国際バカロレアに関する書類の提出を導入した年度	全学部	文学部、教育学部、法学部、経済学部、情報学部、理学部、医学部（医学科のみ、保健学科は除く）、工学部、農学部	IB 資格者以外も対象
12	国立	京都大学	特色入試	平成 27 年度から実施	一部	医学部医学科	IB 資格者以外も対象
13	国立	京都工芸繊維大学	ダビンチ（AO）入試	平成 29 年度実施予定	全学部	工芸科学部	IB 資格者以外も対象
14	国立	広島大学	AO入試 対象別評価方式（国際バカロレア入試）	平成 28 年度から実施	一部	文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、生物生産学部、情報科学部	IB 資格者のみを対象
15	国立	岡山大学	国際バカロレア入試	平成 24 年度以前から実施	全学部	文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、環境理工学部、農学部、グローバル・ディスカバリー・プログラム	IB 資格者のみを対象
16	国立	長崎大学	AO入試Ⅰ（グローバル・国際バカロレア枠）	平成 28 年度から実施	一部	多文化社会学部	IB 資格者以外も対象
17	国立	鹿児島大学	国際バカロレア入試	平成 27 年度から実施	全学部	法文学部、教育学部、理学部、医学部、歯学部、工学部、農学部、水産学部、共同獣医学部	IB 資格者のみを対象
18	公立	国際教養大学	AO・IB・高校留学生入試Ⅰ AO・IB・高校留学生入試Ⅱ	平成 24 年度以前から実施	全学部	国際教養学部	IB 資格者以外も対象
19	公立	会津大学	ICT グローバルプログラム全英語コース入試	平成 28 年度から実施	全学部	コンピュータ理工学部	IB 資格者以外も対象
20	公立	首都大学東京	SAT/ACT・IB入試	平成 29 年度実施予定	一部	理学部（生命科学科）	IB 資格者以外も対象
21	公立	横浜市立大学	国際バカロレア入試	平成 25 年度から実施	全学部（医学部看護学科を除く）	国際教養学部、国際商学部、理学部、データサイエンス学部、医学部（医学科のみ）	IB 資格者のみを対象
22	公立	都留文科大学	国際バカロレア推薦入学試験	平成 28 年度から実施	一部	文学部	IB 資格者のみを対象

23	公立	大阪市立大学	国際バカロレア入試	(文学部) 平成 28 年度から実施 (生活科学部) 平成 29 年度から実施	一部	文学部・生活科学部	IB 資格者のみを対象
24	私立	千歳科学技術大学	一般学力入試 (I 期、II 期)	平成 27 年度から実施	全学部	理工学部	IB 資格者以外も対象
25	私立	東北福祉大学	AO 入試	平成 29 年度から実施	全学部	総合福祉学部、総合マネジメント学部、教育学部、健康科学部	IB 資格者以外も対象
26	私立	松本歯科大学	AO 入試 一般入試 校友子女入試	平成 27 年度から実施	全学部	歯学部	IB 資格者以外も対象
27	私立	青山学院大学	自己推薦入学試験 【英語資格取得者を対象】	平成 24 年度以前から実施	一部	文学部	IB 資格者以外も対象
28	私立	学習院大学	外国高等学校出身者および海外帰国生徒対象入試	平成 24 年度以前から実施	一部	法学部、経済学部、文学部、理学部	IB 資格者以外も対象
	私立	学習院大学	A O 入試	平成 27 年度から実施	一部	国際社会科学部	IB 資格者以外も対象
29	私立	慶應義塾大学	A O 入試 (I B 方式)	平成 26 年度から実施	一部	総合政策学部 環境情報学部	IB 資格者以外も対象
	私立	慶應義塾大学	国際バカロレア資格取得者 (日本国内) 対象入試	平成 26 年度から実施	一部	法学部	IB 資格者のみを対象
30	私立	工学院大学	国際バカロレア特別入試	平成 27 年度から実施	全学部	先進工学部、工学部、建築学部、情報学部	IB 資格者のみを対象
31	私立	国際基督教大学	ユニヴァーサル・アドミッションズ 4 月入学帰国生入学試験	平成 24 年度以前から実施	全学部	教養学部	IB 資格者以外も対象
	私立	国際基督教大学	ユニヴァーサル・アドミッションズ 4 月/9 月入学書類選考 April/September Admissions by Documentary Screening	平成 24 年度以前から実施(4 月入学書類選考については平成 29 年度より導入)	全学部	教養学部	IB 資格者以外も対象
32	私立	順天堂大学	【医学部】 国際臨床医・研究医枠入学試験 B 方式 (国際バカロレア入学試験)	平成 26 年度	一部	医学部	IB 資格者のみを対象
	私立	順天堂大学	【国際教養学部】 特別入試 (I、II)	平成 26 年度	一部	国際教養学部	IB 資格者のみを対象

			[B方式]国際バカロレア特別入学試験				
33	私立	玉川大学	国際バカロレアAO型入学審査	平成24年度以前から実施	全学部	文学部、農学部、工学部、経営学部、教育学部、芸術学部、リベラルアーツ学部、観光学部	IB資格者のみを対象
	私立	玉川大学	国際バカロレアAO型入学審査(指定校型)	平成26年度から実施	全学部	文学部、農学部、工学部、経営学部、教育学部、芸術学部、リベラルアーツ学部、観光学部	IB資格者のみを対象
34	私立	中央大学	自己推薦入学試験	平成27年度から実施	一部	経済学部	IB資格者以外も対象
35	私立	東京国際大学	アメリカ留学(ASP)特待生入試	平成28年度から実施	全学部	商学部、経済学部、言語コミュニケーション学部、国際関係学部、人間社会学部	IB資格者以外も対象
	私立	東京国際大学	特定校特待生入試	平成28年度から実施	全学部	商学部、経済学部、言語コミュニケーション学部、国際関係学部、人間社会学部	IB資格者以外も対象
	私立	東京国際大学	イングリッシュ・トラック・プログラム学部入試(4月入学)	平成30年度から実施	経済学部 国際関係学部	経済学部 国際関係学部	IB資格者以外も対象
	私立	東京国際大学	イングリッシュ・トラック・プログラム学部入試(9月入学)	平成30年度から実施	経済学部 国際関係学部	経済学部 国際関係学部	IB資格者以外も対象
36	私立	東洋大学	国際バカロレアAO入試 国際バカロレアAO渡日前入試	平成27年度から実施	全学部	文学部、経済学部、経営学部、法学部、社会学部、国際学部、国際観光学部、情報連携学部、ライフデザイン学部、理工学部、総合情報学部、生命科学部、食環境科学部	IB資格者のみを対象
37	私立	日本工業大学	国際バカロレア入試	平成27年度から実施	全学部	基幹工学部 先進工学部 建築学部	IB資格者のみを対象
38	私立	日本獣医生命科学大学	特別選抜入学試験(帰国子女及びIB取得者)	平成26年度から実施	全学部	獣医学部、応用生命科学部	IB資格者以外も対象
39	私立	法政大学	国際バカロレア利用自己推薦入試(文学部・経済学部・人間環境学部・キャリアデザイン学部) 国際文化学部分野優秀者特別入試 グローバル教養学部自己推薦入試	平成28年度から実施	一部	文学部(哲学科・英文学科)、経済学部、国際文化学部、人間環境学部、キャリアデザイン学部、グローバル教養学部	IB資格者のみを対象(文学部、経済学部、人間環境学部、キャリアデザイン学部)

40	私立	武蔵野大学	国際バカロレア特別入試	平成 27 年度から実施	一部	グローバル学部・教育学部	IB 資格者のみを対象
41	私立	武蔵野学院大学	推薦入学試験	平成 28 年度から実施	全学部	国際コミュニケーション学部	IB 資格者以外も対象
42	私立	明治学院大学	自己推薦 AO(B)	平成 28 年度から実施	一部	国際学部（国際キャリア学科）	IB 資格者以外も対象
43	私立	立教大学	自由選抜入試	平成 26 年度から実施	経営学部	経営学部	【IB 資格者のみを対象】
44	私立	浦和大学	AO 入試	平成 29 年度以前より実施	全学部	こども学部 総合福祉学部	IB 資格者以外も対象
45	私立	明海大学	アドミッションオフィス（AO）入学試験	平成 28 年度から実施	一部	ホスピタリティ・ツーリズム学部 ホスピタリティ・ツーリズム学科 グローバル・マネジメントメジャー	IB 資格者以外も対象
46	私立	愛知医科大学	国際バカロレア入試	平成 28 年度から実施	一部	医学部	IB 資格者のみを対象
47	私立	中京大学	グローバル特別入試（バカロレア資格型）	平成 28 年度から実施	全学部	国際英語学部、国際教養学部、心理学部、法学部、経済学部、経営学部、総合政策学部、現代社会学部、工学部、スポーツ科学部	IB 資格者のみ対象
48	私立	関西学院大学	インターナショナル・バカロレア入試（理工学部は、グローバルサイエンティスト・エンジニア入試）	平成 28 年度以前より実施	全学部	神学部、文学部、社会学部、法学部、経済学部、商学部、人間福祉学部、国際学部、教育学部、総合政策学部、理工学部	IB 資格者のみを対象
49	私立	近畿大学	国際学部 AO 入試	平成 27 年度から実施	一部	国際学部	IB 資格者以外も対象
50	私立	京都外国語大学	海外帰国生徒特別入試（国際バカロレア入試含む）	平成 29 年度から実施	全学部	外国語学部・国際貢献学部 ※	IB 資格者以外も対象
51	私立	立命館大学	AO 選抜 文学部「国際方式（デュアル・ディグリー・プログラム）」入学試験	平成 28 年度から実施	文学部	文学部 国際文化学域 文学部 コミュニケーション学域	IB 資格者以外も対象
52	私立	神戸女学院大学	国際バカロレア入学試験	平成 28 年度から実施	全学部	文学部、音楽学部、人間科学部	IB 資格者のみを対象
53	私立	倉敷芸術科学大学	国際バカロレア入試	平成 29 年度から実施	全学部	芸術学部、生命科学部、危機管理学部	IB 資格者のみを対象
54	私立	立命館アジア太平洋大学	全ての AO 入試	平成 26 年度から実施	全学部	・ アジア太平洋学部 ・ 国際経営学部	IB 資格者以外も対象
55	国立	東京学芸大学	国際バカロレア入試(仮称)	平成 32 年度実施予定	全学部	教育学部	IB 資格者のみを対象
56	私立	創価大学	指定校推薦（国際教養学部のみ）、公募推薦	平成 31 年度より実施	全学部	経済学部、経営学部、法学部、文学部、教育学部、理工学部、看護学部、国際教養学部	IB 資格者のみを対象

57	私立	芝浦工業大学	国際バカロレア特別入学試験	平成30年度より実施	全学部	工学部 システム理工学部 デザイン工学部 建築学部	IB資格者のみを対象
58	国立	東北大学	国際バカロレア入試	平成29年度より実施	一部	文学部・理学部・医学部 医学部・工学部・農学部 法学部・薬学部	IB資格者のみを対象
59	私立	西南学院大学	国際バカロレアAO入試	平成31年度	全学部・学科・専攻	全学部・学科・専攻	IB資格者
60	私立	日本体育大学	国際バカロレア(IB)資格入試	平成28年度より実施	体育学部 児童スポーツ教育学部 保健医療学部	体育学部 児童スポーツ教育学部 保健医療学部	IB資格者以外も対象
61	株式会社立	ビジネス・ブレークスルー大学	全入試方式(一般入試、AO入試、推薦入試)	平成29年度より実施	経営学部	経営学部	IB資格者以外も対象

【注】

- ・日本の学校の卒業生を対象としているものを記載しています(帰国生や留学生を対象を限定しているものを除く)。
- ・本資料は、各大学の募集要項、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」採択調書その他の公表資料に基づき文部科学省にて作成したものであり、必ずしも全ての情報を網羅しているわけではありません。また、実際の出願等に当たっては、各自、最新の情報等を確認してください。